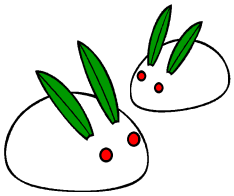
平成26年度学校だより
善誘館 NO．９
Ｈ．２７．１．２２
甲府市立善誘館小学校　校長室



校　訓　　「善行・勤勉・体育」
学校教育目標
○　思いやる心をもつ子
○　よく考え工夫する子
○　元気でたくましい子

１月９日（金）から３学期が始まりました。子どもたちは、１３日間の楽しい冬休みを終え、気持ちを新たに登校してきました。

始業式では、未（ひつじ）年にちなんで動物の「羊（ひつじ）」について話をしました。

『漢字が作られた中国では羊は食料や服になる大切なものとして扱われてきました。ところで、羊が使われている漢字に「美」という字があります。「大」＋「羊」があわさって「美」という字ができました。大きい羊は美しく立派だという意味をもちました。それから善誘館小学校の「善」という字にも羊が使われています。善はもともと「羊」＋「言」＋「言」（旧字体）があわさった字で「善（よ）いこと」という意味をもちました。

そこで、今年は未（羊）年にふさわしく、善誘館小学校の子どもたちにも、「美しい心」で友達にやさしくしたり、進んで「善いこと」をしたりできるようにがんばってほしい。』と話しました。

「善誘」の子どもたち

本校では、児童会で「愛校・愛町作業」を行っています。年間６回、定期的に校庭や校舎の周りと朝気ふれあい公園の掃除活動をしています。特に落ち葉の季節には重点的に行っています。

昼の掃除の時間や休み時間を合わせて３０分間、全校縦割り班毎に落ち葉やごみを拾っています。落ち葉の季節には、ゴミ袋に数え切れないくらい落ち葉を集めてくれます。やっぱり大勢でやると子どもといえども大きなパワーになります。子どもたちがみんな一生懸命やっている姿を見ると、

さすが善誘館の子どもたちだと感心します。校名のとおり、「善く人を誘(いざな)う」「善誘」の子どもたちの姿です。最近では６年生が、児童玄関が砂で汚れていると、自主的に掃除したり、一輪車が散らかっていると片付けたりと、すばらしい行動が見られます。うれしいかぎりです。

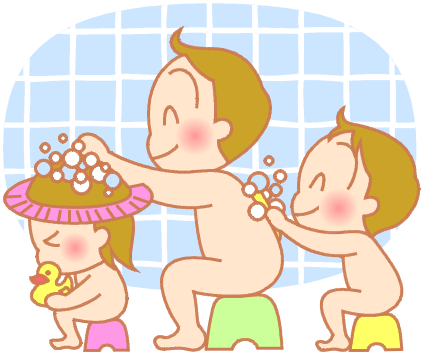
親の愛は海よりも深し…

「子どもが言うことを聞いてくれない」「どうしたら困った行動が減るの？」ー。
親にとって子育ての悩みは尽きません。２０１４年（平成２６年）９月２４日付けの山梨日日新聞の文化・暮らしの欄に米国で開発された「怒鳴らない、イライラしない子育て法」が紹介されていました。

記事では、山梨大学を会場にして行われた子育てに関わる講座の内容を紹介しています。（※詳細は、新聞記事をお読みください。）

記事の中に、学校での教育にも参考になる「育みの行動」が紹介されていました。

①励ます（褒める、認める）
②愛する（ハグ、目を合わせる）
③受容共感（話を聞く）
④世話（衣食住日課）
⑤寄り添い（一緒に過ごす、遊ぶ）



の五つで、「育みの行動は１８歳まで常にしていくもので、これによって子どもの中で愛されているという実感が生まれる。」ということでした。

子どもを愛するが故に子育てに悩むことも多いと思います。親の愛は海よりも深し、愛情をもって育てていけば、ほとんどのことは解決していきます。そして、子どもに手をかけてあげられるのも１８年と考えれば、あっという間のことです。過ぎてしまえば、悩んでいる時代がよかったといえる日が来るかも知れないですね。

寒さのピーク　春の足音も…

今年の寒の入(かんのいり)は１月６日でした。この日から節分（立春の前日）までの約一か月が寒(かん)で、小寒１５日、大寒１５日と続き、一年中で一番寒い時期です。

子どもたちは寒さに負けず、元気よく登校していますが、インフルエンザが流行って、多くの子どもたちが欠席している学年もあります。しかし、あと２週間もすれば、立春です。春の足音も聞こえてきそうです。厳しい寒さに負けずがんばってほしいと思います。校長室には早くも春の訪れを告げるチューリップと菜の花が飾られています。